

《講演者プロフィール》

Dr. Wayne Anderson

(ウェイン・アンダーソン博士)

アイルランド食品安全庁 食品科学・基準局 局長

英国・レディング大学にて食品微生物学の博士号を取得しており、予測的微生物モデリング及び保存システムを専門とする。2007年より、国際食品微生物規格委員会 (ICMSF) のメンバーである。

食品関係の企業で研究者として勤務後、1999年よりアイルランド食品安全庁 (FSAI) で勤務。2012年、食品科学・基準局長に就任し、FSAIにおけるリスク評価及び研究の総括、並びにFSAIとしての食品安全や栄養に関する公的文書の科学的責任を担っている。その他、国内各種審議委員、FAO/WHO合同専門家会議委員や議長、欧州食品安全機関 (EFSA) 技術専門部会委員等を歴任している。

Dr. Marcel Zwietering

(マーセル・ツヴァイテリング博士)

ワーゲニンゲン大学 教授

オランダ・ワーゲニンゲン大学にて食品微生物学の博士号を取得しており、定量的食品微生物学及びリスク評価を専門とする。2005年より、ICMSFのメンバーである。

1987年にワーゲニンゲン大学を卒業後、同大学にて勤務。助手、准教授を務めた後、1998年にフランス・ダノンの研究所での勤務を開始し、定量的リスク評価等に従事し、2003年より現職。FAO/WHO合同微生物学的リスク評価専門家会議、EFSA、Codexワーキンググループ等で、リスク評価の専門家として活躍している。ICMSF主催の講演では、定量的リスク評価、サンプリングプランの数学的解説、ICMSFによるサンプリングプランのエクセル表の解説等を担当している。

寺嶋 淳博士

(Dr. Jun Terajima)

国立医薬品食品衛生研究所 衛生微生物部 部長

獣医学の博士号を持ち、細菌学、特に下痢症の原因となる腸内細菌を専門とする。

国立感染症研究所細菌第一部に20年以上勤務し、2013年7月より現職。腸管出血性大腸菌、赤痢菌、サルモネラなどの病原性解析に関する研究に従事し、菌と感染宿主細胞の分子応答機序に関する研究実績がある。また、菌の分子型別を主体とする病原体サーベイランスである、PulseNetの構築に参画し、PulseNet Asia Pacificの構築に貢献した。

豊福 肇博士

(Dr. Hajime Toyofuku)

山口大学 共同獣医学部 教授

獣医学の博士号を持ち、獣医公衆衛生学及び獣医疫学を専門とする。

厚生労働省に20年以上勤務し、WHO食安全部において食品中の微生物の国際的なリスク評価機関であるJEMRA (FAO/WHO合同微生物リスク評価専門家会議)の事務局を担当していた経験もある。帰国後、JEMRAにおいて専門家として参加する一方、国際食品規格を作成しているコーデックス委員会において食品の微生物リスク管理を担当している食品衛生部会における作業部会の座長を務めるなど、食品衛生の分野で国際的に活躍をしている。

小関 成樹博士

(Dr. Shigenobu Koseki)

北海道大学大学院 農学研究院 准教授

農学の博士号を持ち、食品工学、予測微生物学を専門とする。

(独)食品総合研究所において食品製造における微生物制御に関する研究に従事し、在職期間中には食品微生物挙動データベースMRV (<http://mrviewer.info>)を開発し、現在も運営を続けている。2013年より北海道大学大学院農学研究院にて予測微生物学、食品工学の研究に携わるとともに、国際予測微生物データベースComBaseの日本での普及活動に従事している。